

平成29年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：(数学) 科目：(数学Ⅱ) 対象：(第2学年 A組～F組)

教科担当者：(A組：印)(B組：印)(C組：印)
(D組：印)(E組：印)(F組：印)

教科・科目の指導目標	数学の基礎的知識の習得を図り、数学的な考え方を身につけさせる。また、大学一般受験に適応できる学力を養う。
------------	--

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本的な事柄は、ほぼ理解できている。 ○教科書や問題集の応用・発展問題を定期考査の範囲に入れて継続して取り組んだ結果、正答率が向上した。 ○難易度の高い応用問題では正答率は低い。 ○上位層(偏差値60～65未満)では、難問も解く力はあるが、基本問題で間違えるなどの安定感のなさがある。 ○中間層(偏差値50～55未満)は今後の指導内容で更なる上昇も望める。各単元の応用問題が得点できるようにしたい。 ○下位層(偏差値45未満)については基本問題を確実にとけるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的事項の理解度の確認。 ○応用力の養成。 ○論理的考察力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書および問題集のA問題(基礎)を2回以上解き、基礎的・基本的事項を完全に理解させる。 ○教科書の発展問題および問題集のB問題・応用問題・総合演習を各定期考査ごとに課題提出させ、問題の難度に慣れさせ、挑戦していく力を養成する。 ○5月連休、長期休業中の課題等で、入試を見据えた発展問題や計算力を養う問題を出題する。 ○自習室での取り組み、放課後の指導を通して、基礎力や応用力の不足を補う。 ○勉強合宿等で、日頃取り組めない入試問題や、論理的思考を要する問題に取り組ませる。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			